臺灣日日新報 夕刊 臺灣新民 昭和十三年八月二日（火曜日） 第一万三千七百八十二號 （一）
（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）
臺灣新民報社 臺北市榮町四丁目一番地 電話（三）一五五番 佐々木 貞
臺北市榮町四丁目一番地 電話（三）一五五番 臺灣日日新報社
基隆中山町 電話一八五番 基隆支局
臺中市綠川町 電話一八五番 臺中支局
臺南市錦町 電話（二）七番 臺南支局
高雄市入船町 電話（三）一五番 高雄支局
花蓮港街入船町 花蓮港支局
大阪市北區堂島濱通一ノ四 ヨネダビルディング内 大阪支局
東京市芝區新橋一ノ一 東京支局
夕刊定価一部二錢
八月一日

宿松の敵、袋の鼠
我軍猛攻を開始
九江西北方の敵は遂に潰走
武漢から救援部隊

【九江二十一日發同盟】去る二十八日太湖西方の涼亭河を果敢なる曉の敵前渡河したるのち更に大別山脈東南麓の重疊たる山道を利用し永久陣地に據れる頑敵を擊破しつつ長江北岸の要衝○○を目差して猛進擊を續けてゐるわが○○部隊は三十日朝遂に宿松包圍態勢を完成し目下同方面の敵殲滅を期してこれに猛攻を加へつつある

衆を恃んで逆襲
我が方の反擊に敗走

【安慶二十一日發同盟】太湖北方華陽店附近の山間に潛伏する敗敵は第百十四、第百七十の兩師の主力に第百三十一、第三十五兩師の一部を加へ、三個師團の大敵で三十日夜衆を恃んで數次に亘り華陽店のわが陣地に逆襲し來つたがいづれもわが岡山、白崖

【東京一日發本社特電】石油は國防の血液である、然も現在日本の石油は殆んどを輸入に仰いでゐるといふ事實は餘りにも有名である、從つて日本の石油問題は國防上最も重大な問題であるといはねばならない、この重大問題に關する第一回の懇談會が一日午後三時から陸軍省會議室で開かれた、出席者は陸軍側から岩畔豪雄、秋永月三、藤原喜平、海軍側から高木惣吉、石川信吾、岡敬純、民間側から正田貞一郎、藤原銀次郎、小林一三、池田成彬、津島壽一、藤山愛一郎、石坂泰三、鈴木文治、中山伊知郎、有澤廣巳、矢野恒太、永野重雄、大藏省から青木一男、賀屋興宣、商工省から吉野信次、岸信介、小金義照、企畫院から鈴木庫三、陸軍省から佐藤賢了、海軍省から保科善四郎、外務省から石射猪太郎、東亞局長、情報部長、陸軍省軍務局長、海軍省軍務局長、大藏省理財局長、商工省總務局長、企畫院總務部長、內閣書記官長、內閣調査局長、內閣情報部長、內閣參事官、內閣書記官長、荒木文相、伊東文部、有馬遞信、內田鐵相、小泉厚相、末次內相

學用品、實習材料の消費節約を實踐

無駄を省いて一定規準へ

全島の中等・小公學校で

全島六十万の学生、生徒、児童が年々消費する学用品、実験実習材料は莫大なもので、これが近来急騰の学用品が**非常**に騰貴となり其使用法も放漫さあつて無駄がをく父兄の負担も如何なる程度でなく又所から学用品の整備と改良は教育上有害無益であつて極に成むべきであるが従来之等に関して適切有効なる統制を加へる事がなかつたのは洵に遺憾であるといふので今回文教局学務課に於ては「學用品の調整統制に関する調査委員會」を設け生徒児童の使用する学用品（実験実習材料を含む）並に被服等に関し整理統制に支障を來たさない範囲内で極力品質の低下と消費の**節約**を図る事となり目下其の合理化等に就き調査研究の上は具体的に一定の規格を定めて全島の中等学校及び小公学校に之を實行せしむる事となつたが是によつて全島の生徒児童の自発的に非常時教育に協力し国家に貢献する物資保持と消費節約の實を挙くると共に二重教育に於ける學用品（教科書を除く）の二部（一部は教室用及び寄宿舎用）の二部に其の生みの親、育ての親で去る四月二十六日濱口北方系飛行場の爆撃の華と散つた偉勲中佐の母、程子刀自へ「お国の為の荒鷲の母の亀鑑として流涙裡の會から表彰されるものになつた

毛氏から日赤に一千圓寄附

【上海二日發同盟】ノースチャイナ・デイリーニュース社支配人モーリス氏は去る五月下旬知己の重態の報に接し北京を通じて日本赤十字社に對し金二千円の寄附を申出でたが日本赤十字社でもこれを受納するに決し七月三十一日附をもつて同氏を日本赤十字社特別會員となし「感謝狀」の三通を贈り入れた木箱三個を贈つた

九江碇泊中の英艦爆破を免れる

我が○○艦の機敏な處置で

渡洋爆撃行の一周年記念

來る十四日日比谷で

【東京一日發本社特電】渡洋爆撃行の一周年の來る十四日を卜し荒鷲、荒鷲六、昨年八月十四日拓務、支那海を翼つた艦隊を率いて我が海の荒鷲に依つて敢行された第一回渡洋爆撃こそは世界空中戦史に輝しい記録を飾ると共に銃後国民に多大の感激を與へたものであつたその一周年の來る十四日夜日比谷公園大音響裡で渡洋爆撃一周年記念の爆撃の夕が演出される筈で目下拓務省、大日本航空協会、大日本青少年團、大日本連合婦人會等の主催に依つて着々準備が進められてゐるが當日は午後六時から一般市民の参加を許し午後八時三十分から一般市民の参加を許し午後八時三十分から一般市民の参加を許し午後八時三十分

眞夏のパラソル

二つの目的をどう扱ふか

紫外線と赤外線の問題

醫學博士　櫻井秀雄

パラソルかざした夏の女性の風情は、まことに捨てがたい趣のあるものですが、さて皆さんは夏のパラソルをお求めになる場合、何を標準にしてゑらつしやるのでせう？　定めて見た眼に涼しくて着物や皮膚の色との調和を考へたり、年齢も考慮してあれこれとゑらばれるわけでありませうが、もう一つ根本的の問題、どんな地質の、どんな色のものが太陽線や紫外線をさへぎるのに最も効果的かと云ふことを知らねばなりません

紫外線の問題

まづ、われくの皮膚の日に焦ける原因でが、大體は御承知の通り紫外線のためです、從つて紫外線を完全に遮るなら焦けるといふこともないはず、さういふ意味で染めた日傘でもあれば理想的ですが、殘念ならないので色で云へば黃色か褐色のものが比較的紫外線を防ぎ得ます（ウルトラグンは完全に紫外線を斷つ色素ですが、また眼には眼鏡、顏眞くらゐにしか應用されてゐません）

赤外線の問題

次に熱といふ色も紫外線、赤外線すべてを防ぐので日焦け防ぎには相當ですが、一番いけないのは青紫色線のものです、以上申上げたのは紫外線の問題つまり日焦けを防ぐ問題だけで、熱いとか涼しくないとか、云ふことは又別の赤外線の問題となります

熱の反射

赤外線は二名線とも云はれてゐまず、そこで晝は黑い色は熱い色は熱線を吸收し、白い色は熱線を反射すると考へられてゐましたそれで洋物などでも冬は黑いものを用ひ、夏は白いものを用ひるのが適當とされてゐました、尤も黑色にも熱を反射する特殊黑色もありますが、さう云ふものを除外として云へば比較的熱線を反射するのはやはり白、及び白に近い淡色といふことになります、たほどちらの場合でも、布目は出來るだけ細かい方がよろしい

二つの目的

さて、パラソルを用ひるのは、日焦けを防ぐためか、暑さを防ぐためか、どちらかといへば前者の方に重きを置くでせうが、都會ではゴミや衣類、煙などに惱まされて紫外線の量は比較的少いので、まづ熱線の方を主として考へたいといふ譯です、

ミルクセーキ

一日中はそのまま使へます

玄米湯とは？

玄米は洗つてから炒つて煎じ湯ではないがよく炒つて煎じの際に振ります、尙、その他に一番、二番、三番と云ふ煎じ方もありますが、普通は一番煎じで澤山の水に一握み入れて煮出し一杯の水に一握み入れて煮出し番煎じにして冷します、なほ二度でも三度でも新しいのを足せばいつまでも使へます

國策に應じた“木靴”が出現

歐米諸國に二十萬の悲鳴をあげたのがドレスメーカーの問題です洋服を着た先づこしらへた自分の洋服につくらし、靴が欲しくなります「履ける」でも仕方がないわと諦めるだけでは非常時の女性とは云へません、假たる鋼鐵統制に關聯して、色色と工夫して、當局の意向に添ふものでせうと云ふ意味で、目黑洋裁女學校が先頭に立つて、東京中の下駄屋を歩きまはつて、サンダルシューズを集め、色々と工夫し、既に大半の生徒さん達の足のウッド・シューズで登校し練習を續歩してゐます。既製品では甲、バンドがたにぴつたりしないので、とくに合せ變更をせねばならぬ、それに合せ變更をせねばならぬ、それに合せ變更をせねばならぬ、それ

江戸桃花陣 (102)

(第十回)

海音寺潮五郎作
富永謙太郎畫

百鬼夜行(十一)

「……さつとかういふ次第なのよ、親分。お氣の毒と見られないんですよ。何とかしてやつていただきたいわ」

「唄みまする。もとはと申せば、身兵がいらぬ腕立てをいたしたために人の惱みを買い、つひに殺傷相應の土器をこの御屆敷にお金はや申したのでござる。万殿今はつき申した。お願い申すは、ただ御慈悲に腕をつまらせて、言葉をつづけることが出來ずに、兵衛は兩手を支へた體の上にぼと〳〵と涙を落した。

「まあ〳〵お手を上げてください まし」

重兵衛は兵衛の手を上げさせて「大體の筋道は御新造の話でわかりましたが、それで……」

と兵衛に、御禮の御形、委しと相ほり葉ほり聞きただした。

兵衛は記憶してゐるかぎりを物語つた。

「傳吉の野郎だな——それで本多と何つしやる御旗本をいためつけた野郎共つてのは」

これも、本多から聞いたことを詳しく物語つた。

「二人は三百郎だ」

ほつきりと相手は言ふ。

すらり〳〵と腰の脇付て行くうれしさに、兵衛は脇を叩き、ぶらぶらな即を上げてゐた。

「わかり申すべいか、わかり申すべいか」

「それごらんなさいまし。あたしの申した通りでございませう」

おりんはおりんで得意になつたが、重兵衛はむづかしい顔して腕を組んで考へこんでゐるのである。

二人はまた元の安になつて、默つてまじ〳〵と見つめてゐると、腕組みを解いて、

「こいつはかなりにむづかしい邪魔でござんすな。御新造をもう一人の御新造の目前だかつきましたが、それがかりませんな。傳三郎殿も相當な惡黨には違ひありませんが、二人だけでやこれほどの大藝を打てつこありません。どうでもその裏面の事情の糸口が出たことに氣ひたいと思ひまするが……」

「それでは、親分の手をわらんのでござらうか……」

「いや、わからねえつて言ひ切りやしませんが……」

「御新造の御新造この。どういたさう。身兵は……」

兵衛、また促し出した。

ひたすらに主人の身を案ずるこの兵衛の心に、重兵衛は心を動かされたらしく

「とにかく、まあ、手はつけて見ませう。しかし、少し金がかかるかも知れませんが、そいつを前もつて御承知置き願ひたいので……」

「承知でござる。承知でござる、いかほどなりとも、金は惜し上げ申す。御御折り、切に〳〵御願ひ申す」

おりんも言葉を添へた。

「德川家ですもの、御金のことは心配しないで下さいな。それにあたしの家だつて、かうして一旦乘り出したからには、そのままにはして置きアしません。安心して思ふ存分御折つて見てください ませ」

「いや、手前がいただく金ちやございません。どうやら、金にはうとかつた仕事らしい氣がしますんで、そつちの方に金がいりやしねえか と思ふんでございます と」

「だつて、親分だつて無代で働くつもりはないんでせう」

加藤支隊宮三里に

△ソヴエット・ロシアトノ境ニアル滿洲國ノ領地 張鼓峰ニハ 七月十二日カラ ソヴエット・ロシアノ兵隊ガヤツテ來テ陣地ヲツクツタリ、大砲ヲスエタリシテ フツガフナコトヲシテキマシタガ ワガンタイデハナントカ コレヲ圓滿ニ カイケツシタイトカンニンシテキマシタガ ナホモ 反省セズフツガフナコトヲクリカヘスノデ 七月三十一日 朝早ク コレニ攻撃ヲクハヘ 擊退シマシタ コレデ張鼓峰一帶ハ 二十日目デモトノホリニナリマシタ

傳說の立琴は空に織女星は美しく光る

◇……八月の天文學界

ロンが樂人オルフエウスに與へた立琴の形がそのまま天に掛けられたものとされてゐる、オルフエウスは樂聖として讃へられた樂人で、琴のしらべはじまると鳥獸は巢をつくる營みをやめ、鰐は花から飛び出して草の葉の上に翅をやすめ、流れる谷せせらぎの音をしのび、草木は戰ぎ、風は靜まり、靈魂はその歌聲にたづれて張り裂けんばかりの悲しみをおぼえるといふ。

◇

この樂聖オルフエウスの愛エウリディは結婚の夜であつたが、或日、野原を踏んだために蛇に噛まれ忽ち絶命を踏んだために蛇に噛まれ忽ち絶命を踏んだために蛇に噛まれ忽ち絶命

臺灣日日新報
日本唯一夕刊共二十頁
昭和十三年八月二日（火曜日）
（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）
（第二版）
第一万三千七百
臺灣日日新報社
所在地臺北市北門町二丁目十五番地
電話代表九八〇一番 振替口座臺北二〇八三番
定価一部六銭・一ヶ月前金壹圓五拾錢・六ヶ月金八圓五拾錢・壹ヶ年金拾七圓（日本國內及支那滿洲送料下賜）
廣告料 普通欄一行十五字 壹回 壹圓五拾錢 特別欄一行二十五字 壹回 貳圓
振替口座臺北二〇八三番 電話 編輯 二〇五三番 營業 二四八三番

社說

ビルマ人の自覺と反英運動
我が聖戰に因る心波の作用

一

人間の心波は電波の如きものである。中途に山あり海あり國境があつても無雜作にそれを越えて此の心波が所謂千波萬波を動かすやうに二國に起つた現象が他の國民の心波を刺戟して同々なる他の事態を惹起する。我が國が一歩一歩つてイギリスやソ聯を首腦とする支那抗日勢力の打倒に邁進し、然も其の勝敗の如何が今日及將來の東洋の盛衰を決すべき重大なる關係にあるが故に、我が聖戰の眞意義が彼等の心波を通じて全世界に傳播し、其の同情と支持とを得つゝあることは、既に我が國の聖戰開始以來の事實が之を證明して居る。

二

ビルマ人の心波も亦我が聖戰の眞意義を感得し、之に同情と支持とを與へつゝあることは、ビルマ人の最近の動向が之を證明して居る。

ビルマは印度帝國の一部として英國の植民地的取扱を受けて來たが、一九三七年四月一日から印度より分離して新たに十六番目の英國屬領として獨自の政治機構が與へられ、ビルマ人の手による責任内閣が組織されることになつた。

ビルマ人の民族意識は、英國の植民地的取扱に對する不滿と、印度人の英國に對する反感とに刺戟されて、年と共に昂まりつゝあつたが、特に一九三七年四月一日ビルマが印度から分離して新たに十六番目の英國屬領として獨自の政治機構が與へられ、ビルマ人の手による責任内閣が組織されることになつてからは、ビルマ人の民族意識は一層激化の趨勢を辿り、何事かは必らず爆發すべき順序に在つた。偶々今回は回教徒排斥に端を發したビルマ人の暴動に對する印度人の反感に刺戟されて、ビルマ人と印度人との衝突となつたのである。

ビルマ人の印度人に對する反感は、ビルマ人の印度人に對する反感と同樣に、又それ以上に根深いものがあつて、

經濟時事

戰時食料政策
愈よ全面に登場
農林省の配給機構整備案

戰時經濟統制は全面的に刻々強化されつつあるが、食料については今のところ未だ統制が強化されて居ない、これはわが國が主食品の米穀を始め食料生産に惠まれ、殊して自給自足が可能なためでこの點國民として大いに感謝せねばならない、併し他面、これがために國民の戰時心構が緩慢に流れ易いことは事實である、從つて今後の經濟統制の强化は國民の三大必需品の一つに數ひないが若し供給が梗塞に統制になつたり、或は

大昔は老人がゐなかつた

(二) ヴァロア教授の研究

フランスの人類學者

古石器時代のネアンデルタール人たちの姿や、生活をさすために、多くの人々が沢の國際の生活場面を描いてゐるが、その場合彼らは通常その場面に青年も老人もとり入れてゐる。

しかしヴァロア教授の說見によれば老いた人たちがさういふ場面にゐる筈がない。ネアンデルタール人は殆ど例外なく生活を送つてゐたために、四十歳にも達するともう生命をすり切らしてしまつたやうに、うたものの如くである。四十歳に近づくともう白髪が生えて、體がよつて了よのであつた。しかし腰が曲るといふやうなことは殆どなく、老齢の現象も生じなければ、神々しいやうな姿態を生じてくるわけでもなかつた。少くともこのヴァロア教授はさうした老いた人の特徴を示すやうな證據を一つとして見出さなかつた。もしそのやうな老人が居たとしたらネアンデルタール人が願ふ多數設掴されてゐるのであるから、さういふものが一つも發見されないといふことは考へられないことである。

○

ヴァロア教授の研究によると、ネアンデルタール人の子供は育たない方が普通といつていい位であつた、といふのは、少年少女の半數以上は二〇歳以前に死亡してゐるのだから。

これを數字で示すと五五パーセントが二十歳未満で死亡　四〇パーセントが二十乃至四十歳で死亡　五パーセントが四〇乃至五〇歳で死亡

村民全部が五〇歳未満で死亡してしまつた實例さへあるのである。

「人生は四〇から」といふ現代のスローガンはネアンデルタール人にとつては全く無意味である。彼らは老齢をもちあぐむといふやうなことはなかつた。實際に老人になる前に死んでしまつたのだからである。

しかし石器時代の葬儀が行はれてゐたことは、やがてネアンデルタール人は地上から姿を消してしまひ、クロマグノン人と呼ばれる人間が、三〇、〇〇〇年以前に繁榮してゐた。クロマグノン人は美といふ点でネアンデルタール人よりも遙に優れてゐたといふのはネアンデルタール人よりも、我々によりよく似てゐたといふ意味である。背もすつと高くてバイトにも及ぶものもあつた。顔の輪廓も遙かに上等であつた。クロマグノン人はフランスやスペインの洞窟の壁に巨大な動物の姿を描いて遺してゐるのでよく知られてゐる。彼らは世界最初の美術家として廣く認められてゐる。

○

けれども、この最初の美術家であるクロマグノン人たちも、老齢の樂しみと苦しみとを味ふことは出來なかつた。生き殘る子供の割合もネアンデルタール人に比しては多かつたが、それでもやはり彼らの生命は五〇歳位で終つてゐる。

ヴァロア教授の調査によると次の如くである。

三四パーセントは二〇歳未満で死亡
五三パーセントは二〇乃至四〇歳で死亡
一〇・三パーセントは四〇乃至五〇歳で死亡

ヴァロア教授は彼が調べた一八七體の頭蓋のうち其の〇歳以上と見られる三個の頭蓋を發見したのであるが、その三つとも我々の所謂「老人の部に屬するものでない。

人間よりも鋭敏であるやうである但しこれは人間だけの所謂可視光線についてだけ云へることであつて、その他の点ではかつて感覺の方が鋭敏である。「蛾」は殆ど

不思議な動物の心理

(三)

デイヴイド・キヤツツ

も、結婚生活へなく生活することが出來る。人間の場合は、せいぜいのところ感覺が鋭かなくても食慾の盛んさか選ばられるといふ程度であつて生命には餘裕がないが、多くの動物の場合には、食物を發見したり、相手をみつけたりすることは、一にかかつて嗅覺に依存するのであるから、もし嗅覺が十分に發達しないやうな場合には殆ど致命的な缺陷となる。

蜂と視覺

どういふ點が夫々種々な性質をもつてゐる。刺へば味覺には四つある。酸つぱい、甘い、苦い、にがい、がこれである。動物には人間にないやうな感覺がある動物には視覺と嗅覺しかない。しかしその嗅覺は人間には知られてゐないところの感覺が存在してゐるのが多い。昆蟲の色彩の世界は大體に於いて人間よりも鋭敏であるやうである。

燃え上る炎

△

ところが我々人間はそれを認めることが出來ない。あらゆる動物の感覺のうち、その四分の一以上は眼の網膜の紫外線を反射する。それによつて蜂はいち早く花を見つけ得ることが出來るのである。だから蜂にとつては、この感覺は生物的な意味をもつものである。

外線に對して敏感な感覺である。

ところが我々人間はそれを認めることが出來ない。あらゆる動物の感覺のうち、その四分の一以上は眼の網膜の紫外線を反射する。それによつて蜂はいち早く花を見つけ得ることが出來るのである。だから蜂にとつては、この感覺は生物的な意味をもつものである。

餓鬼地獄

犬や馬や鹿や兎などを觀察してゐると、これらの動物は靜止してゐる對象の形狀を見ることが困難であるやうに思はれる。これに反して、動いてゐる對象に對する感覺は人間に優つてゐるやうである。これらの哺乳動物とは反對に、家鷄などは靜止せる物體の形狀をはつきりと見る事が出來る。例へば「餌」が砂の山から食料となる穀物だけをあさり出すには極めて巧い眼力を必要とする。

△

エクスナーによれば、昆蟲の眼は點の集まりに過ぎないが、運動の知覺には敏感なる必要はあります。最初のうちは蜂の巣箱にも近よれません。蜂の巣箱の形狀を覺えるまでは、蜂の巣箱の形狀を覺えるまでは、蜂の巣箱の形狀を覺えるまでは、